

にちぎん

2020 NO.62

夏



インタビュー 扉を開く

室伏広治 陸上男子ハンマー投げ元日本代表選手
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツディレクター
世界の壁を超える力

エッセイ “おかね”を語る

門井慶喜 作家 懸賞金一万円

さきごろ文藝春秋より『東京、はじまる』という本を出した。

史上初の日本人建築家というべき辰野金吾を主人公とした歴史小説である。金吾の出世作はもちろん日本銀行本店だから、その設計および建設工事については特に念入りに記したが、その工事には、じつはのちのち総理大臣になる人も参加している。

高橋是清。ただし正式な行員ではなく建築事務所の所員、つまり金吾の部下である。事務主任として雇われたのだ。

このまだ三十代の主任さんは、しかし発想が奔放だった。何しろ前例のない工事だから工期の遅れが深刻だったが、或る日、日銀総裁・川田小一郎へ、

「一万円だけ自由に使わせてください」

だけと言われても、総工事費の見積りは八十万円なのだから少額ではない。

川田は、怒りっぽい人である。おそらく爆発寸前の顔で、

「何に使うのだ」

「この工事は大倉組に請け負わせ、大倉組がまた四人の石工の親方に下請けさせておりますが、この四人はたびたび賃金の値上げを要求し、拒否されると同盟して仕事を休む。そのくりかえ



絵・江口修平

懸賞金一万円

門井慶喜

しで工事がここまで遅れたのです」

「……」

「だから今後はまず大倉組との契約を解除し、われわれ（建築事務所）がじかに四人それぞれと契約をむすぶ。その上でひとりにつき建物の一角ずつを請け負わせ、期日に遅れたら一日五百円の罰金をとる。期日前に仕上げたら、逆に、同額の賞金を出すこととしましょう。その賞金のために使います」

川田総裁はよろこんで、

「金はそういうふうに使わねばならぬ」

と言ったそうで、事実、この作戦は成功した。四人の親方は同盟どころか競争するようになり、工事はにわかに進捗したのだ。それでもまあ、結局のところ完成は一年以上も遅れたのだが。

是清は、その働きがみとめられた。正式な行員になったのである。あとは階段をのぼるだけ。

日銀西部支店長、横浜正金銀行副頭取、日銀総裁。

さらには山本権兵衛内閣の大蔵大臣となり、総理大臣となった。私はもちろん是清のように大金が動かせる人間ではないけれど、それでも『東京、はじまる』は好調で、着々と版をかさねている。おかげで財布もほんの少しだけ、日本銀行券でふくらんでいる。

かどいよしのぶ●作家。1971年群馬県生まれ。2003年「キッドナップーズ」でオール讀物推理小説新人賞を受賞。16年「マジカル・ヒストリー・ツアー」で日本推理作家協会賞（評論その他の部門）、18年には「銀河鉄道の父」で直木賞を受賞。新著は建築家・辰野金吾を描く『東京、はじまる』。ほか万城目学との共著『ぼくらの近代建築デラックス!』など著書多数。



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
懸賞金一万円 作家 門井慶喜



- 4 インタビュー／扉を開く
室伏広治 陸上男子ハンマー投げ元日本代表選手
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツディレクター
世界の壁を超える力



歴代日本銀行総裁小史～Short History～ 第3回

- 10 第三代総裁 川田小一郎
12 第四代総裁 岩崎彌之助

日本銀行のレポートから

- 14 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2020年4月—
16 「金融システムレポート」—2020年4月—



- 20 FOCUS → BOJ ③ 日本銀行本店見学
本店の新しい見学コースをご紹介します

- 25 トピックス
新型コロナウイルス感染症に関連した
日本銀行の取り組みについて ほか



- 27 AIR MAIL from Paris
為政者と民衆の思いが交錯するまち・パリ

※本誌は6月3日(水)までの情報をもとに掲載しています。

表紙のことば

日本銀行北九州支店は、明治二十六年（二八九三）十月に開設された西部支店を前身としています。支店として開設され現存する中では、大阪支店に次ぐ長い歴史を持っています（初代西部支店長は、後に日本銀行総裁、内閣総理大臣となる高橋是清です）。

前身の西部支店は、大正六年（一九一七）に門司支店と改称しました。最初の店舗は、昭和二十年（一九四五）、空襲により、本館が全焼しました。翌日からは焼け残った金庫と公文庫を活かしつつ、市中の銀行内に仮店舗を設け、営業を続けました。

昭和二十三年（一九四八）には門司事務所に改組され、翌二十四年（一九四九）に二代目の店舗が落成しました。

その後、昭和三十八年（一九六三）に「北九州支店」となりました。三代目となる表紙の現店舗は、昭和三十九年（一九六四）、北九州市の金融・商業の中心地である小倉区（現在の小倉北区紺屋町）に新築移転したものです。現店舗は、北九州の街とともに歩んできます。



表紙・画 北村公司

室伏広治

MUROFUSHI Koji

陸上男子ハンマー投げ元日本代表選手
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツディレクター



日本人アスリートとして初めてオリンピックと世界陸上の両大会で金メダルを獲得するなど、圧倒的な戦績を残したハンマー投げの室伏広治さん。外国人選手との体格差の不利をカバーするため、科学的研究に基づいた投てきやトレーニングを追求してきた。練習について強制を一切なかったオリンピックの父の存在、海外を転戦した武者修行から得たもの、そして組織委員会スポーツディレクターとして臨む東京オリンピック・パラリンピックへの思いなど、幅広くお話しいただいた。

世界の壁を超える力

投てきの科学的研究で 体格差の不利を覆した

——室伏さんのお父様（重信氏）

も陸上男子ハンマー投げで四度
オリンピック日本代表に選ばれ
たトップアスリートでした。そ
の下で、どのような子ども時代
を過ごされましたか。

室伏 小さいころからスポーツ
と、そして国際色豊かな環境が
身近にあったと思います。父は
アメリカの大学でコーチ学を学
んでいた時期があり、私も小
中学校時代には二年半ほど海外
で過ごしました。陸上競技場が
遊び場になることもありまし
た。父がトレーニングしている
そばでハードル走をしたり棒高
跳びをやってみたりといったよ

うに、遊びの中で陸上というス
ポーツを自然と覚えていったよ
うに思います。トップアスリー
トやそのコーチたちと身近に接
する機会もありましたから、将
来こういうふうになりたいなど
憧れを自然に抱かせる、そんな
恵まれた中で育っていった気が
します。

——ハンマー投げもそのころか
ら教えを受けられたのですか。

室伏 父が練習するとき、私は
子ども用のハンマーで遊んでい
ましたが、父から本格的に教
わったことはありません。「ハン
マー投げをやりなさい」と言わ
れたことはないんです。小学生

の私がでたらめな投げ方をして
いるのを見かねて、危険がない
ように基本を手ほどきしてくれ
る程度でしたが、そうした指導
のおかげで、私はいわゆるゴー
ルデンエイジのこ
ろに正しい体の使
い方を覚えたのだ
と思います。結局、
高校に入る直前、
私からハンマー投
げをやりたいと言
うまで、父が積極
的に教えてくれる
ことはありません
でした。

——ハンマー投げ
や円盤投げ、やり
投げといった投て
き競技は、欧米の
選手が圧倒的に強

い印象があります。室伏さんは
日本人としてはもちろん、アジ
ア人で初めて投てき種目でのオ
リンピックの金メダルに輝きま
したが、最初から世界で戦う自



3歳のころ。この当時、父重信氏が作った発泡スチロールを布で巻いて糸
でしばった手製のハンマーを遊びで投げていた。（写真提供：室伏広治氏）

信があったのでしょうか。

室伏 想像もしてなかったですね。私はハンマー投げ選手としては、素質に特別恵まれていたわけではありません。世界トップレベルの選手と比較すると体格は劣っていました。「向いている」競技というのが、人種や民族によってあると思うのですが、ハンマー投げの場合、スラブ系（中・東欧に居住するスラブ語民族）とゲルマン系（北・西欧に居住するゲルマン語民族）の選手が強いですね。一方でアジア系やアフリカ系の選手はそれほど強くありません。

ただ、父からは「ハンマー投げで大事なものは体格だけじゃない、体力そして投てきのセンスだ」とよく言われました。体格では劣っても、筋力をバランスよく強化し、センス、具体的には投てきの技術や感覚を磨くようにと。そのセンスを、自分なりに理想を追い求めながら磨き上げたことが、世界の高い壁を超える武器になりました。

—— スポーツ科学の知見を取り

入れ、ハンマー投げの動作研究に力を入れたと伺いました。

室伏 現役時代からアスリートと研究者の二足のわらじでやってきました。動作の感覚を科学的に捉え直し、記録の更新につながるかと考えたのです。私の場合、四回転してハンマーを投げますが、八メートルを投げた際の回転速度は時速一〇〇キロ以上になり、体には三五〇キロ以上の遠心力がかかります。遠くへ投げれば投げられるほど負担がかかります。ハンマー投げに限らずものを速くに投げるには、手放す瞬間の初速によって投てき距離が決まります。その初速を最大にするには、力まかせに投げては駄目ですし、投げる前の回転スピードだけを上げてもうまくいきません。回転ごとに、いかにハンマーのヘッドスピードを高めてゆか。車の運転に例えれば、ローからトップへとギアを上げていくように、力とスピードの掛け算であるパワーを最大にしていきます。私は、ハンマーのワイヤー

部分にセンサーをはめ込み、力学的な諸条件である、速度や張力、運動エネルギー（注）などをリアルタイムで計測する方法も研究しました。試行錯誤の末に、

「タフ」でなければ オリンピックで絶対に勝てない

—— ハンマー投げの試合では、選手が投てきするのは一瞬で、待機している時間が非常に長く、投げる一瞬に向けての、待機時間のメンタルコントロールは非常に難しいのではないかと思うのですが。

室伏 皆さんそう思われるようですが、私自身はそうした難しさを感じたことはありません。準備をしっかりとすれば、あとは投げるだけです。競技場に着いた時点で、もう準備は整っていて、待っている間も投げることに集中するのみです。

—— オリンピックなど大事な試合で、自分の実力を出すために必要なことは何でしょうか。

ハンマー投げの動作を自分のものにしたのです。

（注）運動している物体の持つエネルギー。

室伏 陸上のトップアスリートたちは世界を転戦する中で毎週のように顔を合わせ、同じようなメンバーで戦っています。そうした中で、その試合に向けて、いかに自分のベストパフォーマンスに集中できるか、が勝負です。

そういう意味では国際大会に数多く出場し、さまざまな困難な状況から、自らの力で抜け出すことを学び、経験するなご場数を踏むことは、トップアスリートとして大事だと思えます。海外遠征の経験はあっても、ホテルから食事まで誰かに準備し、整えてもらえるといった恵まれた環境に慣れてしまうと、オリンピックのような大舞台で



むろふし・こうじ●1974年静岡県沼津市生まれ。千葉県成田高校に入学してから本格的にハンマー投げを始め、その後中京大学に進学。98年にオリンピックの父重信氏の記録を塗り替える。自己最高記録は2003年にブラハ国際で出した84メートル86で、同記録は日本歴代1位の記録となる。2008年に中京大学大学院体育学研究科博士課程を修了し、博士号（体育学）を取得した。1995年から2014年まで日本選手権20連覇。シドニー、アテネ、北京、ロンドン・オリンピックに出場。04年のアテネで金メダル、12年のロンドンでは銅メダル。11年韓国・大邱での世界陸上でも金メダルを獲得している。14年6月から東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツディレクター、同年10月から東京医科歯科大学スポーツサイエンス機構教授も務める。主な著書に『室伏広治 孤独な王者』『超える力』（いずれも文藝春秋）、『ゾーンの入り方』（集英社新書）、『室伏式 世界最高の疲労回復』（KADOKAWA）がある。

はなかなか勝てません。実際、国際大会を転戦すると、食事の口に合わなかったり、スムーズに移動ができなかったり、必ずしも環境が整っていないことの方が多いです。でも、それが選手を鍛え、選手はどういう状況になっても動じずに、力を出せるようになるんです。

——実際にトラブルにも遭遇しましたか。

室伏 何度もありました。若いころ、エントリー表に、私だけ

名前が見当たらない、エントリーしたはずなのに……ということがありました。大会関係者に聞くと「あなたには出場不可の連絡をした」と言う。しかしそこであきらめず、大会役員に直談判して、試合当日に欠場した選手の代わりに出場を認めてもらったんです。

「試合用のハンマーがない」ということもありました。本来試合の主催者が複数用意することになっているのですが、手違い

があったと。急ぎよ、私が持つて行った練習用ハンマーを、出場選手みんなで使い回して戦いました。国際試合では何が起るか、本当にわからないです。それでも後から思い返すと、試合のことより、そういったハプニングのことの方をよく覚えています（笑）。そういう場数を

いかに多く踏んでいるか、です。最近の選手は国際舞台での武者修行が少ないように感じますが、そうした国際経験が大舞台

でパフォーマンスを出すためには必要だと思えますね。

——室伏さんは、記録もさることながら、世界陸上でも三六歳という大会史上最年長で金メダルを獲得したほか、日本選手権では前人未到の二〇連覇するなど、長きにわたり第一線で素晴らしい結果を残してこられた、という意味でも他に類を見ない存在です。それだけ長い期間、トップアスリートとしてやってこられたのはどうしてだとお考えですか。また、長い間競技に打ち込むのは、その中に楽しみが見いだせないと思うのですが、ハンマー投げの何が室伏さんをひきつけたのでしょうか。

室伏 私自身、現役時代から、長く選手としてやっていくためにどうしたらいいかを考えてきました。スポーツに打ち込むことの面白さ、楽しさというのは、若いころはなかなかわからないかもしれません。競技者として自分が向上していることを実感し、それに喜びを見いだすには

銅メダルを獲得したロンドンオリンピックでの投てき

(写真提供：共同通信社)



「長く」競技をしないと分からないんです。

私の場合、自分の肉体や年齢の限界を超えて競技を続けていくために、既存のトレーニング方法はやり尽くし、世の中に自分の望むトレーニング方法がなくなつたために、独自のトレーニングを開発していきました。自分で考えながら体を鍛え、その結果が自分に返ってくる。これは面白いですよ。どのような

トレーニングをし、何を食べて、どう睡眠を取れば、どんな結果が出るか。私は自分自身を人体実験するように研究していったんです。

与えられたものをただこなすようにトレーニングするのはつまらないですし、集中力が続きません。トレーニングの価値は自分自身で決めるものなんです。その中で、自分が高まっているということを実感してい

れたことが、私が競技を長く続けられた理由だと思えます。

——オリンピック直前の練習でオーバーワークになり、実力を十分発揮できなかったという選手も少なくありません。

室伏 オリンピックを目の前にしてコンディショニングで失敗してしまう例は、私の父の時代にもありました。私の父の時代に同じ失敗を繰り返さないことが、私にとっては父の世代への一つの恩返しになる、と思っていました。ただ、誰かに厳しさを押しつけられてトレーニングをやられる例が、今なお日本のスポーツ界には残っているように思います。選手は、指導者から「負けるわけがない」と思

「精神的な」レガシー

——二〇一四年六月からは東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に所属し、スポーツディレクターを務めていらつしゃいます。

えるまで練習をしなさい」などと、非科学的な根性論で指導され、練習しすぎてしまう。それは、指導者自身が不安で怖くなるからなんです。もっと練習しなければ勝てないと、ついつい必要以上に練習メニューを増やしたり、試合の直前までハードな練習を続けてしまう。そうした指導の下では、選手は本番で本来の力が発揮できるはずがありません。指導者は、選手に対して科学的根拠のあるトレーニング方法を客観的に示してあげないといけません。そういう指導者を増やしていくのは日本のスポーツ界の課題だと思いますね。

アスリートがもたらす

室伏 スポーツディレクターは各オリンピックで必ず一人選任される競技運営の責任者です。私は、国際競技連盟（IF）や国内競技連盟（NF）、また国



際オリンピック委員会（IOC）、国際パラリンピック委員会（IPC）などの調整役を担っています。競技運営では、オリンピックだけでなくパラリンピックもカバーします。そういう要職にお声がけいただいたのは、ちょうど競技生活を

を終えようとしているときでした。私は、アスリートの経験を踏まえ、アスリート視点で取り組めること、そしてスポーツ界に少しでも恩返しをしたいという気持ちもあり、お引き受けしたんです。

—— オリンピックはアスリートにとって、特別な大会ではないでしょうか。武者修行でタフにならなければ勝てない、というお話がありました。それだけ平常心で臨むのが難しいということだと思います。他の国際大会とオリンピックは何が違うのでしょうか。

室伏 オリンピックではあらゆる競技が一つの開催都市で実施されます。他の国際大会の場合、世界選手権のレベルでも、陸上だけ、柔道だけというふうにならざるを得ない競技が単独で行われ、複数の異なる競技が一堂に会して行われることはありません。オリンピックは、総合スポーツイベントだからこそ世界中から注目されますし、そこそがオリンピックにしか持ちえない唯一

無二の価値なのだと思います。

アスリートにとっては、世界から注目される機会になるだけでなく、選手村で他競技の代表選手から学ぶ機会にもなります。限られた場所で数週間、一緒に生活することになりますから。有名なアスリートばかりなので、かえって自然に接することができる気がします。NBA（米プロバスケットボール）の人気選手に対しても、誰も特別に意識をしない、そんな雰囲気がありますね。アスリート同士、言葉を交わさなくてもスポーツ文化をそれぞれ感じ取り、学びあえる。私は、オリンピックを経験する中で、ハンマー投げとは違うスポーツのトレーニングをするのも大切だと考えるようになりました。武道場に通って稽古に励んだり、水泳のコーチについて毎日泳いだりしたこともあるんです。

—— アスリートたちが開催都市に与える影響もありそうですね。室伏 その影響は大きいと思

います。例えば、柔道の試合での「礼に始まり礼に終わる」礼法が、観ている人たちに精神的なレガシーをもたらすかもしれません。また、今回の東京オリンピックは開催都市が提案したサーフィンやスケートボード、スポーツクライミングなど都市型スポーツも新しい種目として加わります。そうした新種目は、最初は遊びで始まったのかもしれませんが、オリンピック種目に取り入れることで、遊びからスポーツになり、教育的な意義を生み出します。オリンピック・パラリンピックは「特定の人たちだけのもの」ではなく、あらゆる人々をとりこぼさず、包み込んでいくものです。スポーツの力で United by Emotion（「感動で私たちは一つになる」の意）を目指していく。それが東京2020大会のテーマなのですから。

—— 貴重なお話をありがとうございます。ございました。

※本インタビューは三月二日（月）に行われたものです。
（聞き手／情報サービス局長（取材当時）中川忍）

歴代日本銀行総裁小史

第三回

第三代総裁 川田小一郎

かわだ こいちろう



【総裁任期】

明治22年(1889)9月3日～明治29年(1896)11月7日

「日本銀行総裁」と聞いて、どのようなイメージをお持ちでしょうか？
このコーナーでは、歴代総裁の生涯をたどりつつ、総裁在任時に取り組んだ事跡や当時の日本銀行の歴史などをご紹介していきます。今回は第三代総裁の川田小一郎と第四代総裁の岩崎彌之助です。

川田小一郎は、天保七年（一八三六）に土佐藩（現在の高知県）に生まれました。経済に明るく、若くして藩の会計方に登用されたほか、藩命により、藩営商社・土佐商会の経営にもあたりました。

明治四年（一八七一）、土佐商会から改称した九十九商会の幹部として、経営者の岩崎彌太郎や彌之助を補佐し、後の三菱財閥の基礎を固めるなど、実業界で大



土佐商会の長崎出張所跡地に建つ「土佐商会跡」の石碑（長崎県長崎市）。

（写真提供：長崎県観光連盟）

いに手腕を發揮しました。明治二十二年（一八八九）、第二代日本銀行総裁富田鐵之助の辞職に伴い、当時の松方正義大蔵大臣（現在の財務大臣）の推薦により、川田が第三代総裁に就任します。

総裁就任直後、日本で初めての経済恐慌が起こります。これは、一八八〇年代の第一次産業革命時、盛んに設立された株式会社があまく機能せず、倒産が増えたことによるものでした。それに対応すべく、川田は民間への貸し出しを積極化し世の中に資金を潤沢に供給するなどして、金融機能の維持、中央銀行としての機能の確立に尽力しました。

こうした取り組みのかたわら、支店網の拡充や人材登用など組織の充実に取り組み、日本銀行の発展の基礎を築きます。特に人材面では、山本達雄（第五代日本銀行

総裁）や高橋是清（第七代日本銀行総裁）等を採用しました。高橋是清には建築事務主任として、日本銀行本店本館の建築にあたらせました（明治二十九年（一八九六）二月に現所在地に完工）。

総裁就任直後の明治二十三年（一八九〇）、帝国議会が開設された際には財界代表として貴族院議員にも勅選されます。そのほかにも、明治二十五年（一八九二）に、新設の鉄道会議（注①）議員に、その翌年（一八九三）には、貨幣制度調査会（注②）の委員に就任するなど、多くの公職に就き、活躍しました。こうした長年にわたる功により、川田は民間出身者として初めて男爵を授けられました。

川田は、総裁在任期間中の明治二十九年（一八九六）に急逝しました。享年六〇歳でした。



川田の総裁任期中に日本銀行に採用された山本達雄（第5代総裁／上）、高橋是清（第7代総裁／中）、井上準之助（第9・11代総裁／下）。



「大日本帝国政府日本銀行全景」
日本銀行本店が完成した明治29年（1896）当時の銀行周辺の様子が描かれている錦絵（梅堂国貞＜三代歌川国貞＞作）。（日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵）



参考動画
「日本銀行本店本館」④本店本館の建設に関わった人物たち／川田小一郎・辰野金吾・高橋是清

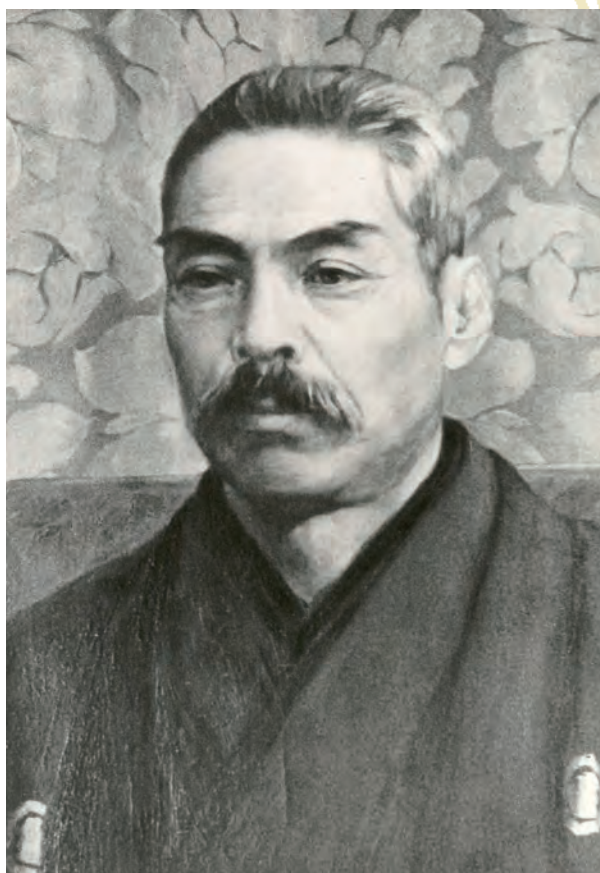
（注①）鉄道会議／鉄道建設の順序や鉄道建設のための公債発行の在り方など鉄道政策を審議するため、鉄道担当官庁に設置された諮問会議。

（注②）貨幣制度調査会／当時の金銀価格の変動やその経済に及ぼす影響、貨幣制度の改正の必要性等を審議するために、当時の渡辺国武大蔵大臣の建議により明治二十六年（一八九三）に設置された機関。

第四代総裁

岩崎彌之助

いわさきやのすけ



【総裁任期】
明治29年(1896)11月11日～明治31年(1898)10月20日

岩崎彌之助は、嘉永四年（一八五二）に土佐藩（現在の高知県）に生まれました。土佐藩校の致道館にて学問に励んだ後、大阪にて歴史学者重野安繹の私塾成達書院にて漢学を学びます。明治五年（一八七二）、

米国に留学しますが、明治六年（一八七三）に帰国し、三菱商会に入社しました。父彌次郎の急逝に際し、兄である同社社長の彌太郎から、自らを支えてほしいとの懇願を受けました。三菱商会では副社長とし

て、主力の海運の増強に加え、鉱山や炭坑の買収などを進めました。彌太郎が没し、彌之助が第二代社長に就任した当初、海運の競争激化等により三菱商会は不振に陥っていました。彌之助は、造船業、保険



岩崎彌之助の生家（高知県安芸市）。彌之助の曾祖父彌次右衛門が1795年ごろ建てたと言われている、建坪約30坪の藁葺きの平屋で、当時の面影をそのまま残している。

（写真提供：一般社団法人安芸市観光協会）

業、不動産業、銀行業と事業の多角化を図りつつ業績を回復させ、三菱財閥の発展の基礎を築きました。こうした実業界での経営手腕を買われ、岩崎は、第三代日本銀行総裁川田小一郎が急逝した明治二十九年（一八九六）十一月に、第四代総裁に就任しました。



致道館は、土佐藩第16代藩主山内豊範の命を受け、藩の参政吉田東洋により文久2年（1862）に建てられた藩校・文武館が前身。幕末の西洋式軍備に対応した人材育成を担った。当時の姿を残す表門（現高知県立武道館の正門）の前には、「致道館 並 陶冶学校址」と書かれた石碑が立っている。
やまうちちよりの
ちどうかんならびにとうやかつこうあて
（写真提供：高知県立武道館）



明治時代に築造された岩崎彌之助邸・三菱社の擁壁のれんがを再利用して造られた岩崎彌之助邸跡等の碑（東京都千代田区）。

総裁就任直後の明治三十年（一八九七）に実施された貨幣制度の改革（注）と軌を一にして、岩崎は金融関連の改革に着手します。当時、日本銀行が決める公定歩合が市中金利とかけ離れていたことから、金利体系の正常化を企図した諸施策を講じました。さらに、外国為替専門銀行であった横

浜正金銀行との間で協調関係の構築にも努めました。また金融政策の手段でも新たな試みを行います。それまでは金融機関への貸出と金利政策を主な手段としていましたが、市中金融機関から国債を買い上げ、その購入代金を市中金融機関に支払うことによる資金の供給を初めて行い、金融政策手段の多様化を図りました。

このように、新たな取り組みを行ってきた岩崎でしたが、明治三十一年（一八九八）、「病氣激務に耐えざる」という理由で総裁を辞任します。実際には政策を巡る政府との見解相違が辞任の引き金になったとも言われています。

岩崎は、絵画、彫刻、刀剣、茶道具などに明るく、明治期の西欧文化偏重の中で、東洋の文化財の散逸への危機感から、幅広い分野の古美術品を収集したことも知られています。

総裁辞任後、財界の表舞台に立つことを控え、明治四十一年（一九〇八）、その生涯を閉じました。享年五十七歳でした。

（注）具体的には金本位制の採用を指す。金本位制とは、貨幣価値を金に裏付けて表すこと。



日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。本稿では、2020年4月の展望レポート（基本的見解は4月27日、背景説明を含む全文は4月28日公表）のポイントを解説します。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/>

「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）

— 二〇二〇年四月 —

二〇一九～二〇二二年度の 見通し（図表1、2）

【当面の経済・物価の見通し】

わが国の経済・物価情勢を展望すると、経済は、当面、内外における新型コロナウイルス感染症の拡大の影響から厳しい状態が続くとみられる。また、物価についても、消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、当面、感染症の拡大や原油価格の下落などの影響を受けて弱含むとみられる。

【やや長い目でみた経済・物価の見通し】

その後、内外で感染症拡大の影響が和らいでいけば、ペントアップ需要（抑制されていた需要）の顕在化や挽回生産が予想されることに加え、緩和的な金融環境や政

府の経済対策にも支えられて、わが国経済は改善していくと考えられる。物価も、徐々に上昇率を高めていくとみられる。今回の見通しにおいては、感染症拡大の影響が、世界的にみて、年後半にかけて和らいでいくことを想定している。

【金融環境】

こうした見通しの背景となる金融環境についてみると、感染症拡大を受けて、内外の金融資本市場で不安定な動きがみられているほか、世界的にみて企業金融に影響が生じている。もともと、各国・地域の政府・中央銀行は、金融市場の安定を維持し、企業金融の円滑を確保するために、積極的な対応を行っている。わが国についても、政府は、企業の資金繰りを支

援するための各種の施策を講じている。日本銀行は、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を推進するもとの、三月以降は、企業等の資金調達の円滑確保と金融市場の安定維持に向けて、各種の強力な金融緩和措置を実施している。そうしたもとの、緩和的な金融環境が維持され、金融面から实体经济への下押し圧力が強まることは回避されると想定している。

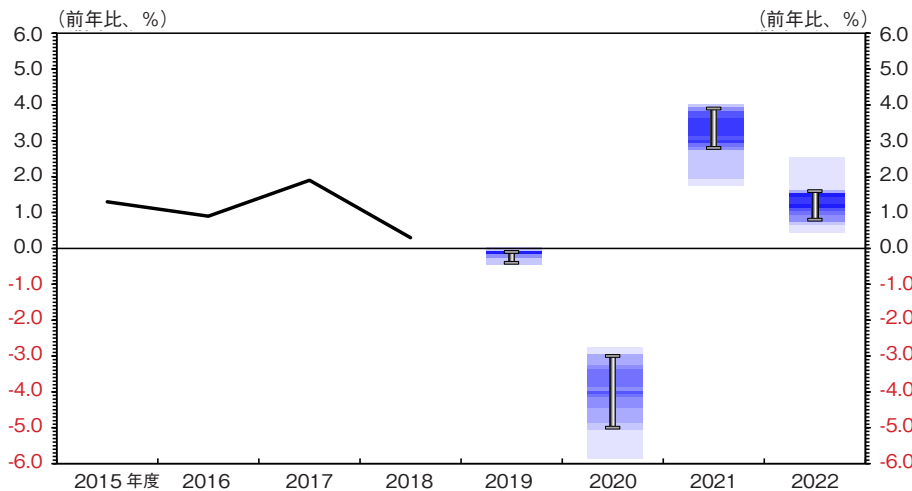
経済・物価のリスク要因

【先行きの経済・物価見通しの不確実性】

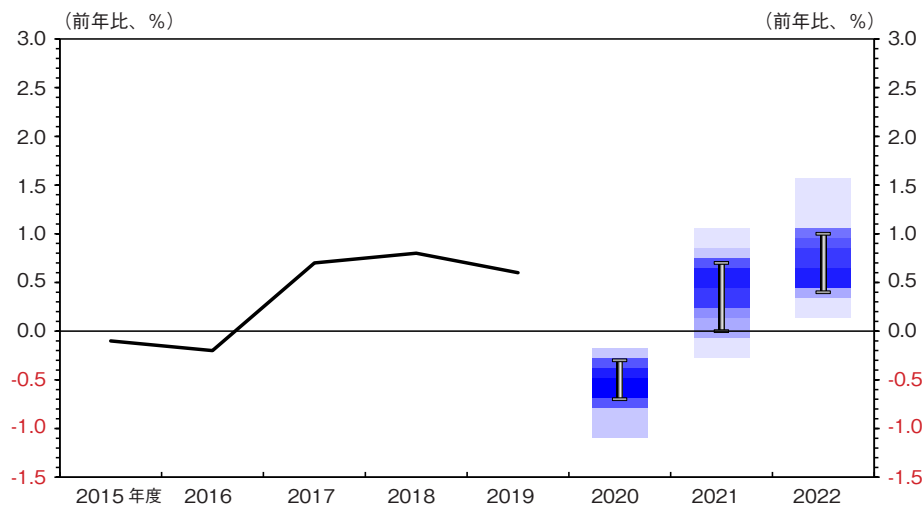
もともと、先行きについては、感染症の拡大が収束する時期や内外経済に与える影響の大きさによって変わり得るため、不透明感がきわめて強い。また、上記の見

図表1 政策委員の経済・物価見通し

(1) 実質 GDP



(2) 消費者物価指数 (除く生鮮食品)



(注1) 実線は実績値。シャドローは、当該値 (0.1%ポイント刻み) が何人の政策委員の見通し値 (レンジ) に含まれているかを、以下の分類で示したものを、縦線は政策委員の「大勢見通し」を表す。



(注2) 消費者物価指数 (除く生鮮食品) の2015年度については、2014年4月の消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベース。

図表2 政策委員の大勢見通し

	対前年度比、%		
	実質 GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	(参考) 消費税率引き上げ・教育無償化政策の影響を除くケース
2019年度	-0.4 ~ -0.1	+0.6	+0.4
(1月時点の見通し)	(+0.8 ~ +0.9)	(+0.6 ~ +0.7)	(+0.4 ~ +0.5)
2020年度	-5.0 ~ -3.0	-0.7 ~ -0.3	-0.8 ~ -0.4
(1月時点の見通し)	(+0.8 ~ +1.1)	(+1.0 ~ +1.1)	(+0.9 ~ +1.0)
2021年度	+2.8 ~ +3.9	0.0 ~ +0.7	
(1月時点の見通し)	(+1.0 ~ +1.3)	(+1.2 ~ +1.6)	
2022年度	+0.8 ~ +1.6	+0.4 ~ +1.0	

(注) 今回、先行きの不確実性が従来以上に大きいことに鑑み、各政策委員は最大1.0%ポイントのレンジの範囲内で見通し (上限値・下限値の2つの値) を作成することとした。「大勢見通し」は、9名の政策委員の見通し値 (上限値・下限値) のうち上から2個、下から2個、計4個の値を除いて、幅で示したものである (政策委員が単一の値で見通しを作成した場合には、当該値を2個と数える)。1月時点の大勢見通しは、各政策委員が単一の値で示した見通し値から、最大値・最小値を1個ずつ除いて幅で示したものであり、今回の大勢見通しとは異なることに留意が必要である。

2019年度の消費者物価指数 (除く生鮮食品) は、実績値。

通しは、感染症拡大の影響が収束するまでの間、企業や家計の中長期的な成長期待が大きく低下しないことや、金融システムの安定性が維持されるもとで金融仲介機能

が円滑に發揮されることなどを前提として、そうした前提には大きな不確実性がある。

「リスクバランス」
リスクバランスは、経済・物価のいずれの見通しについても、新型コロナウイルス感染症の影響を中心に、下振れリスクの方が大きい。



日本銀行のレポートから

日本銀行は、金融システムの安定性を評価するとともに、安定確保に向けた課題について関係者とのコミュニケーションを深めることを目的として、金融システムレポートを年2回公表しています。本レポートの分析結果は、日本銀行の金融システムの安定確保のための施策立案や、考査・モニタリング等を通じた金融機関への指導・助言に活用しています。また、国際的な規制・監督・脆弱性評価に関する議論にも役立てています。金融政策運営面でも、マクロ的な金融システムの安定性評価を、中長期的な視点も含めた経済・物価動向のリスク評価を行ううえで重要な要素の一つとしています。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/research/brp/fsr/index.htm/>

「金融システムレポート」

二〇二〇年四月

二〇二〇年四月号の 問題意識

今回のレポートでは、二月下旬以降、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大がグローバルな金融市場、実体経済に大きな影響を及ぼしているもとの、わが国の金融安定面への影響やリスクについて、これまで蓄積されてきた金融面の脆弱性との関係にも着目しつつ、足もとの状況や今後注視していくべき点を整理した。ポイントは以下のとおり。

現状評価

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、世界経済にきわめ

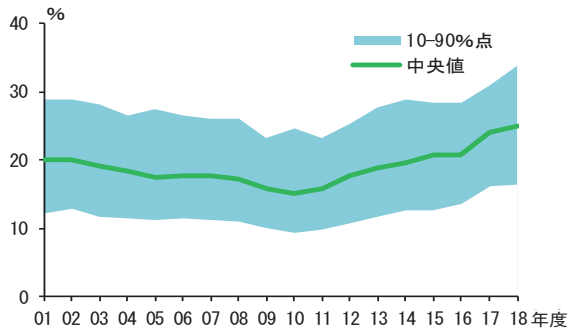
て強い下押し圧力がかかるとともに、国際金融市場が不安定化している。各国株価の大幅な下落、拡張を続けてきた米欧クレジット市場の調整、基軸通貨であるドル資金市場の逼迫、新興国からの資金流出、原油価格の急落などが生じている。また、各国において、景気悪化に伴う信用コスト増加が見込まれるもとの、売上・収益の急減に直面した企業の資金需要が増大しており、金融機関の資本・流動性にも大きなストレスがかかっている。

こうした状況に対し、各国政府・中央銀行は緊密に連携しつつ、強力な財政・金融政策等を発動し、経済活動と企業金融の下支え、金融市場

の機能維持を図っている。金融規制・監督面でも、バーゼルⅢ完全実施の一年延期や資本・流動性バツファアの活用奨励など柔軟な措置が講じられている。これらの政策対応もあつて、これまでのところ、グローバルな金融システムにおける著しい信用収縮は回避されている。

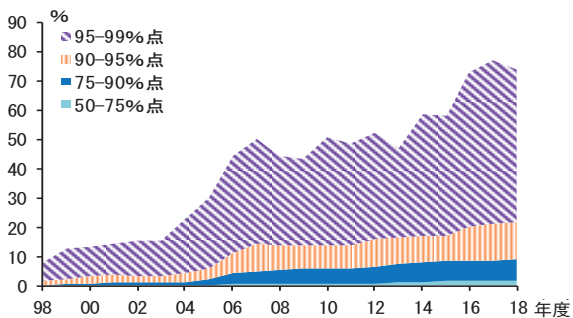
わが国の金融システムも強いストレスを受けているが、全体として安定性を維持しており、経済活動が必要とする資金を供給している。これは、①従来本レポートがマクロ・ストレステスト等を通じて検証してきた通り、金融機関が資本・流動性の両面で相応に強いストレス耐性を備えていること、②政府・日本銀行が

図表1 金融機関の低採算先貸出比率の分布



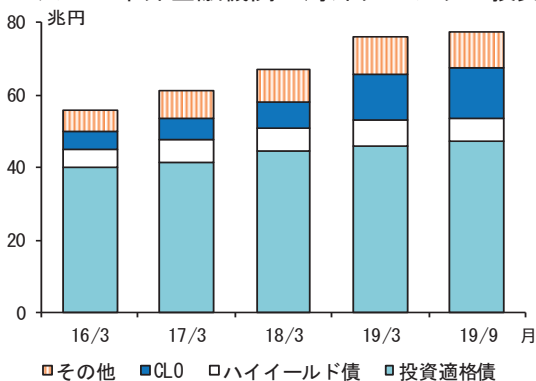
(注) 集計対象は大手行と地域金融機関。
(資料) 帝国データバンク

図表2 企業ののれんの対純資産比率の分布



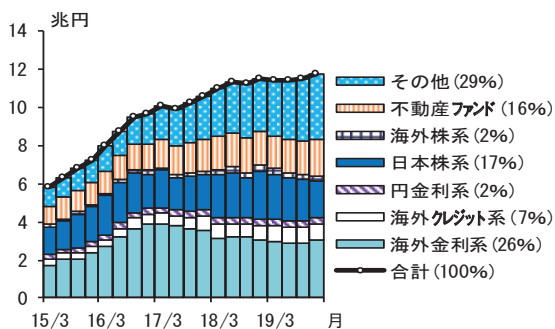
(注) 対象は上場企業。
(資料) 日本政策投資銀行

図表3 本邦金融機関の海外クレジット投資残高



(注) 集計対象は、大手行のほか、ゆうちょ銀行や一部の系統上部金融機関を含む。
(資料) 日本銀行

図表4 地域金融機関の投資信託残高の内訳



(注) 集計対象は地域銀行。取得原価ベース。凡例内の数字は、直近時点での構成比。直近は2019年12月末。
(資料) 日本銀行

迅速かつ強力な政策対応を講じていること、③わが国企業が全体として、内部留保・手元資金の両面で良好な財務基盤を備えてきていること、によるものである。

先行きのリスクと留意点

もともと、感染拡大の今後の展開やそれに伴う実体経済への下押し圧力の強さ、持続期間を巡る不確実性はきわめて大きい。

今回、金融システムに生じているストレスは、感染拡大によって人々

の活動が大きく制約されることに伴う「実体経済ショック」に端を発している点で、「金融不均衡の調整」を直接の背景とする過去のバブル崩壊とは性質が大きく異なっている。もともと、国内外の金融システムでは、今回の感染拡大が生じる以前から、低金利長期化のもとでの利回り追求行動に起因する様々な脆弱性が蓄積されてきた。実体経済の大幅な落ち込みが長期化する場合には、それらの脆弱性を通じて金融面の本格的な調整に結びつき、「実体

経済・金融の相乗的な悪化」につながる可能性がある。こうした観点から注視しておくべきわが国の金融安定上のリスクは以下の三点である。第一は、国内外の景気悪化に伴う信用コストの上昇である。実体経済への影響が長引くと、足もとの資金繰り逼迫が信用力の問題に転化する企業が増え、わが国の金融機関は、低金利長期化のもとで、国内ではミドルリスク企業向け貸出や不動産賃貸業向け貸出、大型M&A関

連など高レバレッジ案件向けの貸出を、海外ではエネルギー関連を含む相対的に信用力の低い企業への貸出を積み増してきた(図表1、2)。これらのセクターは景気悪化に対し総じて脆弱と考えられる。第二は、金融市場の大幅な調整に伴う有価証券投資関連損益の悪化である。近年、大手行等は海外クレジット投資を、地域金融機関は多様なリスクを抱える投資信託等を積み増してきた(図表3、4)。第三は、ドルを中心とする外貨資金市場のタイト化に伴う

外貨調達不安定化である。近年、金融機関は、海外貸出・有価証券投資を積み増すとともに、顧客性預金などの安定調達基盤を拡充してきているが、なお市場調達に依存する部分は小さくない(図表5)。外貨調達不安定化は、海外投融資の巻き戻し等を通じて、海外関連損益の悪化につながる可能性がある。また、第二、第三の点にみられるように、海外とわが国の金融システム間でリスクの波及が生じやすくなっている。

わが国の金融機関は、ここまでのストレスを経てなお相応に強い耐性を備えているほか(図表6、7)、政府・日本銀行や海外当局の強力な政策対応が、今後も経済・金融両面から上記リスクの発現を抑止する方向に作用する。このため、金融安定は引き続き維持されると考えられるが、今後の情勢を予断なく点検していく必要がある。

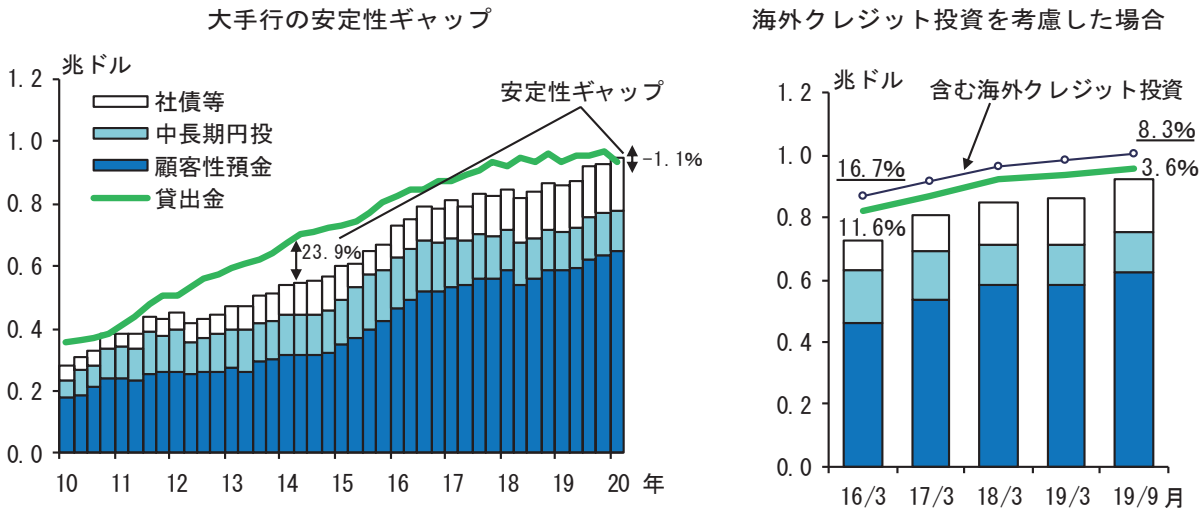
金融機関の経営課題と日本銀行の対応

当面は、感染拡大が内外金融経済

に大きなストレスを与えることで、金融機関は経営の健全性を保ちつつ、金融仲介機能の円滑な発揮を通じて経済を支えていくことが課題となる。感染収束後の局面では、企業の経営改善と経済回復を支援する役割が期待される。

より長い目でみると、金融機関は、今回のショックによって生じ得る経済・企業行動の変化も含め、低金利の長期化や人口減少、企業部門の貯蓄超過といった構造課題への対応を改めて進めていく必要がある。国内預貸収益への下押し圧力が継続するも、①大手行等は、グローバルな業務展開を通じてシステムミックスな重要性を高めてきており、それに対応したガバナンス強化が課題となる。②地域金融機関は、地域の活力向上への貢献から収益を得ていくための事業基盤の構築が従来以上に重要になる。また、③今回のストレス局面的経験も活かしつつ、リスクテイクを積極化する分野での管理力を強化していくことは、大手行、地域金融機関に共通する課題である。加

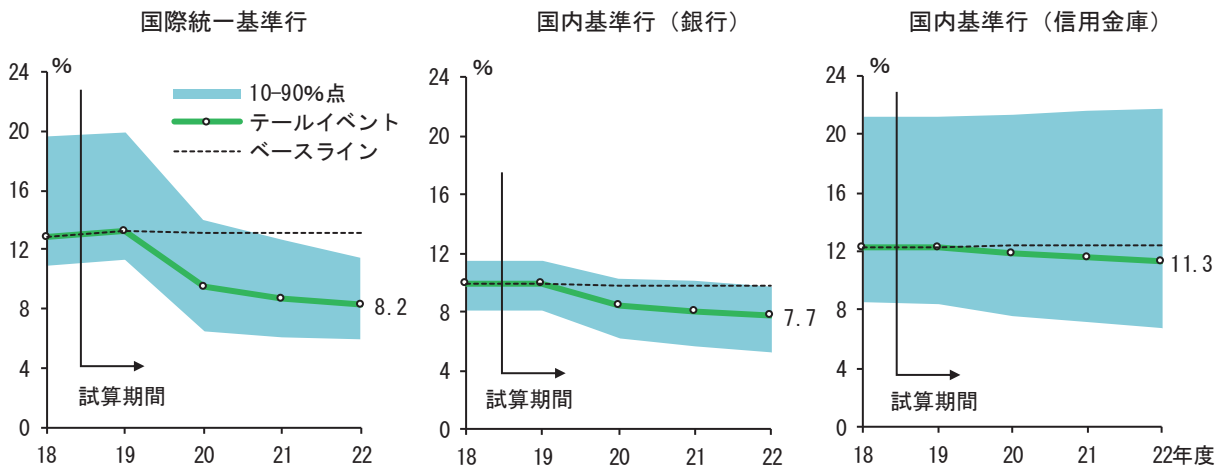
図表5 大手行の安定性ギャップ



(注) 1. 「社債等」と「中長期円投」は、2012年3月末までは3か月超、2012年6月末以降は1年超の調達。
 2. 左図における図中の計数は、貸出金に対するギャップの比率(2014年4月末と2020年2月末)。
 3. 右図の「含む海外クレジット投資」は、貸出金に海外クレジット投資を加算した残高。図中の計数は、貸出金(下線が付してある計数については貸出金に海外クレジット投資を加算した残高)に対するギャップの比率(2016年3月末と2019年9月末)。
 4. 集計対象は国際統一基準行。
 5. 左図の直近は2020年2月末。右図の直近は2019年9月末。
 (資料) 日本銀行

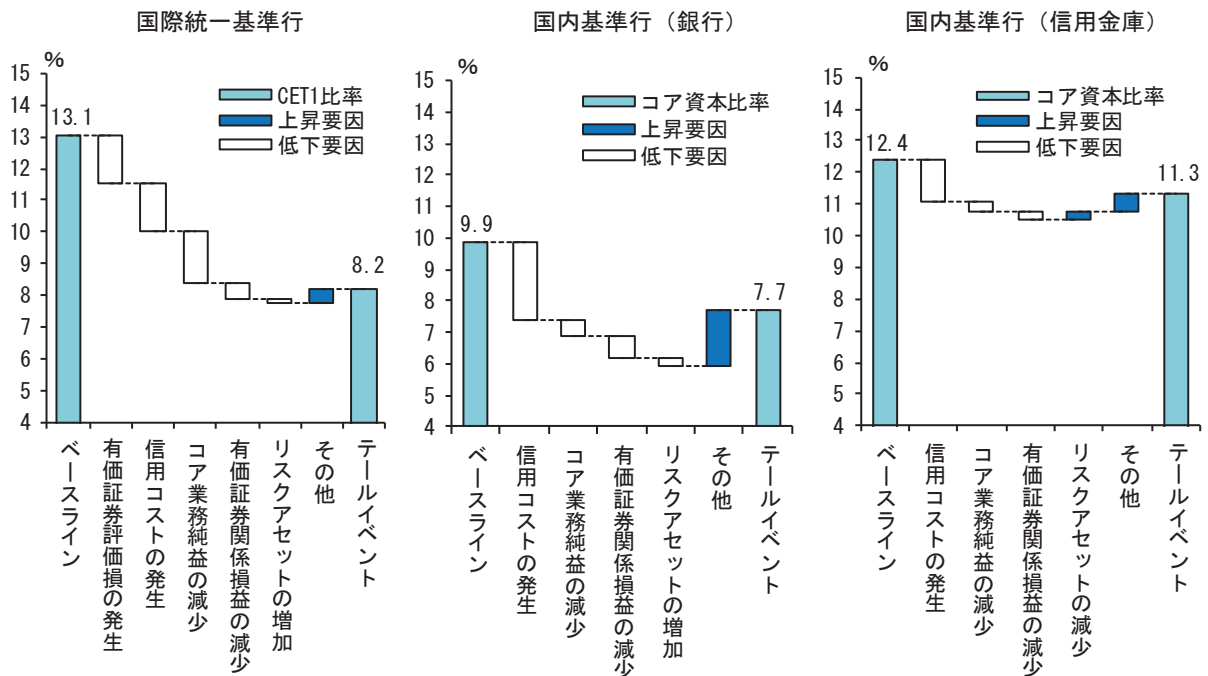
えて、④ デジタルライゼーションや気候変動といった中長期の環境変化がもたらす機会とリスクにも、着実に対応していくことが求められる。日本銀行は、新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかで、政府や海外金融当局等と引き続き緊密に連携しつつ、金融安定の確保に万全を期すとともに、金融機関による金融仲介機能の円滑な發揮を最大限支援していく。また、中長期の視点から、上記四つの課題についても金融機関の取り組みを積極的に後押ししていく。

図表 6 CET1 比率とコア資本比率



(注) 国際統一基準行は CET1 比率、国内基準行はコア資本比率。経過措置を含むベース。
(資料) 日本銀行

図表 7 CET1 比率とコア資本比率の要因分解 (2022 年度)



(注) シミュレーション期間の終期 (2022 年度末) における、ベースラインとテールイベント・シナリオ下の自己資本比率の乖離要因を表示。「有価証券評価損の発生」は税効果を勘案したベース。「その他」は、税金・配当、CET1 調整項目等の寄与の合計。
(資料) 日本銀行

日本銀行本店見学

本店の新しい見学コースをご紹介します

日本銀行では、日本銀行の役割や業務を広く知っていただくことを目的として、見学案内を実施しています。本店では、本館（一八九六年へ明治二十九年V竣工、国指定の重要文化財）の免震化工事や展示リニューアルが完了し、新しい見学コースが完成しました（注）。

今回、見学コースについて、二つのコンセプトに基づき、充実を図りました。そのコンセプトおよび新しい見学コースの見どころについて、写真を交えてご紹介します。

（注）新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、本店見学を三月二日（月）以降中止しています。本店見学の状況については、日本銀行のホームページで事前にご確認ください。

大きく変わった見学コース —本館の魅力を存分に味わう—

一つ目のコンセプトは、本館の魅力を存分に味わっていただくということです。日本銀行本店本館は、「日本近代建築の父」と言われる辰野金吾により、当時の技術と意匠の粋を集めて設計された文化的価値の高い建物です。日本人建築家が手掛けた最初の国家的近代建築である本館について、建物の外観・内観の双方をご覧いただきつつ、建物の魅力やその歴史に関する展示も楽しんでいただけるようにしました（注1）。

本館の免震化工事中、見学者の方から「本

館の中をもっと見たい」「地下金庫に入ってみたい」とのご要望を多数いただきました。こうした声にお応えし、本館内の見学



辰野家蔵

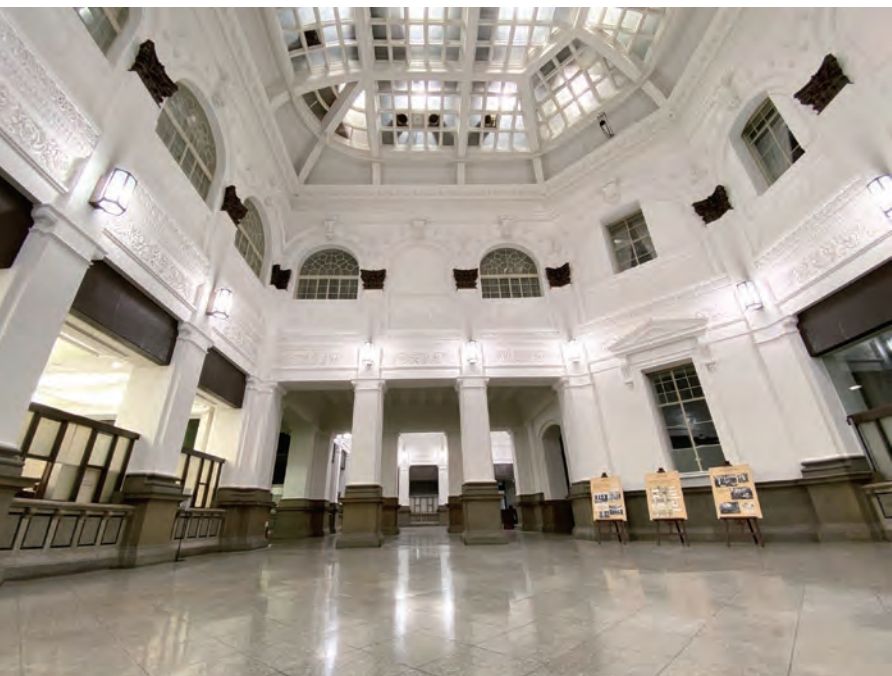
辰野金吾／明治・大正期の建築家。英国人ジョサイア・コンドルに学ぶ。日本銀行本店本館のほか、東京駅等の日本を代表する建築物を数多く手掛けた。



日本銀行本店本館／日本人建築家（辰野金吾）が手掛けた最初の国家的近代建築。1896年（明治29年）竣工。国指定重要文化財。

エリアを拡張して、地下金庫や、かつての営業場・客溜（客用広間）等を新見学コースの中に組み入れました。本館の地下金庫は、関東大震災での被災を免れ、明治期の姿をほぼそのまま現在に残す貴重な空間であり、その当時の白い煉瓦壁（白釉煉瓦）、金庫扉、アスファルトの床が、明治時代の最先端の技術と雰囲気は今に伝えます。また、古典主義建築の美しさを誇る一本石の柱が回廊に連なる中庭や、窓口に明治時代の業務風景（ジオラマ）を配した客用広間「客溜」も、必見です。

客溜／明治から昭和まで使用されていた、銀行窓口（写真左側）に面する客用広間。古典主義様式の様々な装飾が施されている。



ドーム屋根下の八角室／昭和初期まで重役会議等に使用されていたほか、第15代の結城総裁の時には、総裁室として使用されていた。



本館中庭／本館正面は、①正面玄関への入口であり、②地下金庫への現金搬送ルートでもあった。そのため中庭は障壁を設け、閉鎖的な空間となっている。

馬の水飲み場／本館が建築された当時は、馬車が利用されることも珍しくなかった。中庭には、馬を休ませるための水道設備である「馬の水飲み場」が今も残されている。



(注1) 本館の歴史については、『にちぎん』25～28号(2011年春～冬号)で詳述されている。



人気の写真撮影スポット



1億円の重さ体験／見学者に人気。新コースでは、地下金庫内で、明治時代の金庫の煉瓦壁をバックに1億円（模擬券）や金塊（レプリカ）等を持ちながら写真撮影を楽しむことができる。



中庭での写真撮影／本館正面玄関をバックに撮影できる中庭は、人気の写真撮影スポット。エントランスの堅牢な柱が、威風堂々とした印象を演出。

さらに、見学者の方々からのご要望を踏まえ、本館の建物内で写真撮影できる場所を新たに設けました。一億円（模擬券）の重さ体験は、従来から人気を博しています。新コースでは、地下金庫内で、明治時代の金庫の煉瓦壁をバックに一億円や金塊（レプリカ）等を持ちながら写真撮影を楽しむことができますようにしました。本館正

面玄関を背景に撮影できる中庭とともに、人気の写真撮影スポットになるものと期待しています。

日本銀行の歴史や業務を知る — 初公開の展示も —

二つ目のコンセプトは、本店見学を通じて、これまで以上に日本銀行の歴史や業務への理解を深めていただくことです。そのために展示を拡充し、二階の展示室では日本銀行の歴史について、一階の展示室では日本銀行の現在の機能と組織について、それぞれ解説するようにしました。

新たな展示もご用意しました。まず、『辰野記念 日本銀行建築譜』です。これは、

関東大震災後の本館復旧工事の際に、建物を実測して描き起こした図面集です。当初の図面は震災で焼失していたことから、設計者である辰野金吾の功績を後世に伝えるため一九二八年に刊行されました。建築ファンならずとも、威風堂々とした本館の建物を、緻密に作成された立面図、平面図、断面図とともに、ご堪能いただけます。

また、「世界初のお札の自動鑑査機」を初公開します（注2）。世の中に出回った後、日本銀行に戻ってきたお札の真偽、枚数、汚損度を点検する作業を「鑑査」と呼びますが、この作業を世界で最初に機械化したのは日本銀行です。

加えて、現金輸送用貨車「マニ車」の模



展示室（日本銀行の歴史）／一八八二年（明治十五年）の設立後、日本銀行がどのような役割を果たしてきたかを、当時の写真や資料により紹介。



展示室（本館建物の歴史）／本館の建設過程や建築の特徴、日本銀行の建築を担った辰野金吾等について当時の写真や図面により紹介。



歴代総裁の肖像画／本館2階の廊下には、日本銀行の歴代総裁の肖像画がずらりと並び、歴史の重みを感じさせる。

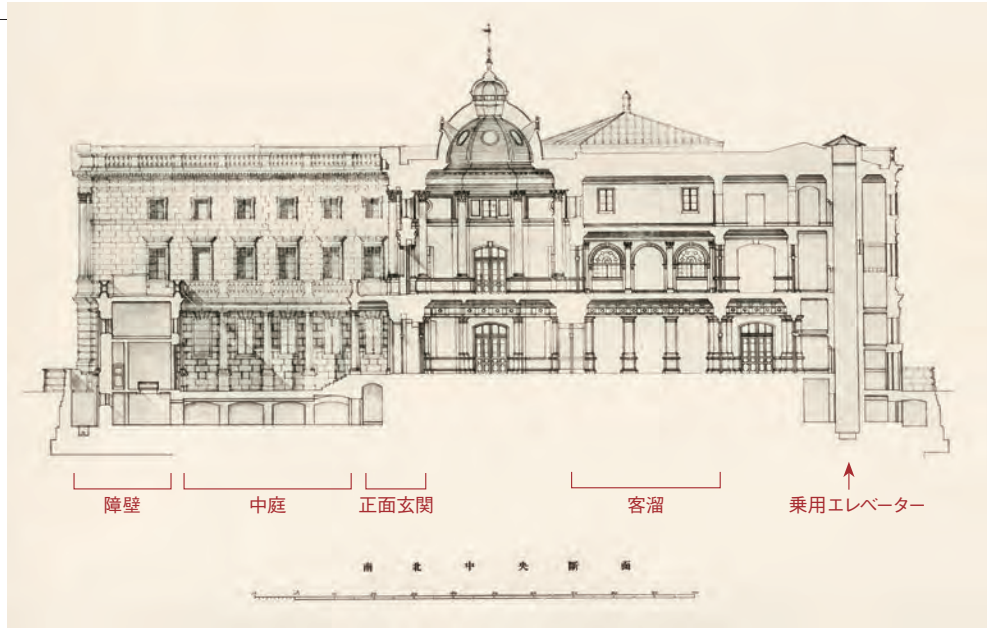
（注2）世界初のお札の自動鑑査機の開発は、後年、「世紀の難事業」とまで言われた。『にちぎん』4号（2005年冬号）に開発メンバーのインタビューを基にした記事が掲載されている。



FOCUS → BOJ

本館の南北中央断面図（『辰野記念 日本銀行建築譜』より）／左側から順に障壁、中庭、正面玄関、客溜とつながる動線となっている。右側階段室内に、日本のオフィスビルで最も古い乗用エレベーターの昇降路が描かれている。

現金輸送用貨車「マニ車」の模型／マニ車の存在は、使用期間中は秘中の秘とされ、名前や移動スケジュールが運行ダイヤに掲載されることはなかった。車体や窓は全て防弾構造になっている。



世界初のお札の自動鑑査機／日本銀行に戻ってきたお札の真偽・枚数・汚損度を点検する機械。1967～1968年に開発し、1969年に使用開始。



本館地下金庫への扉／重さ 25 トンのアメリカ製の金庫扉は、見る者を圧倒する。地下金庫を拡張した 1932 年に設置された。



東日本大震災直後の対応／日本銀行は、震災発生の約 15 分後に災害対策本部を設置。濡れたお札の引き換え希望にも迅速に対応した。写真は、濡れたお札を乾かして真偽判定等するためにアイロンがけしている時の様子。



関東大震災直後の本館／本館は、震災直後の火災により一部損傷したが、倒壊は免れ、震災直後も、日本銀行は一営業日も休まずに業務を継続した。



金座／現在、日本銀行本店のある場所には、江戸時代、「金座」があり、小判等の金貨が造られていた。

型も初めてご披露します。マニ車とは、かつて日本銀行が、お札の輸送に使用していた鉄道貨車のことですが、その存在は、実際に使われていた期間中（二〇〇四年三月末まで）はヴェールに包まれ、秘中の秘とされていたため、非常に珍しい展示です（注3）。

**見て楽しんで学べる見学コース
— インターネットで
いつでも簡単に予約可能 —**

日本銀行の本店見学は、見学希望日の九〇日前から二四時間いつでも、予約サイトで簡単に予約することができます。また、見学エリアが本館の一階と中庭に限られますが、予約不要の当日見学もあります。

本店見学には、小学五年生から高齢者まで幅広い年代の方が日本各地、そして海外からお越しになり、昨年は約一万九千の方が来訪されました。見学の冒頭に

観ていただく日本銀行の紹介ビデオは、①日本語（大人用、子供用）、②英語、③中国語から選択可能であるほか、見学案内も日本語および英語で実施していま

INFORMATION 日本銀行本店見学

1. 予約見学（予約必要）

- (1) 9:30 ~ 10:30
- (2) 11:00 ~ 12:00
- (3) 13:45 ~ 14:45
- (4) 15:15 ~ 16:15

予約サイトからお申込みください。
(<https://www5.rev.nj.jp/bojtour/>)

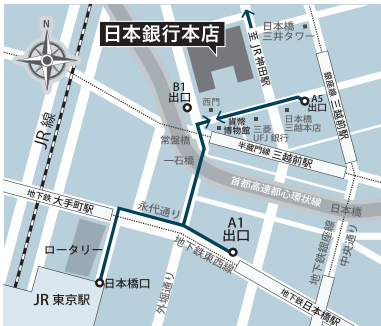
見学希望日の90日前から予約できます。



2. 当日見学（予約不要）

12:45 ~ 13:15

- ◆見学日：月曜日～金曜日（ただし、祝日、年末年始〈12月29日～1月4日〉を除く）。
- ◆見学は無料。
- ◆小学5年生以上が参加可能。
- ◆本館西門が見学者入口。



地下鉄 半蔵門線 三越前駅 (B1 出口) から徒歩 1分
地下鉄 銀座線 三越前駅 (A5 出口) から徒歩 2分
地下鉄 東西線 日本橋駅 (A1 出口) から徒歩 6分
JR 東京駅 (日本橋口) から徒歩 8分
JR 神田駅 (南口) から徒歩 8分

東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
TEL: 03-3277-2815 (本店見学担当)



本店見学予約サイト／見学希望日の空き状況をサイト上で確認して予約できる。24時間いつでも予約可能。



日本銀行職員によるレクチャー／選択したテーマについて、日本銀行職員がレクチャーします！

す。一〇名以上の大学生や社会人は、一日のうち最後の見学（15:15 / 16:15）の後に、日本銀行職員によるレクチャー（約三〇分）をリクエストでき、テーマを①日本銀行の政策と業務、②金融リテラシーから選択できます。最近、このレクチャーの利用が増えています。

日本銀行の本店見学では、国の重要文化財である本館の建物を見て、一億円（模擬券）の重さ体験や写真撮影を楽しみ、中央銀行の政策や業務等を学ぶことができます。見学は無料です！ぜひ、日本銀行本店に足をお運びください。

(注3) マニ車については、小樽の歴史を取り上げた『にちぎん』2号(2005年夏号)で紹介されている。



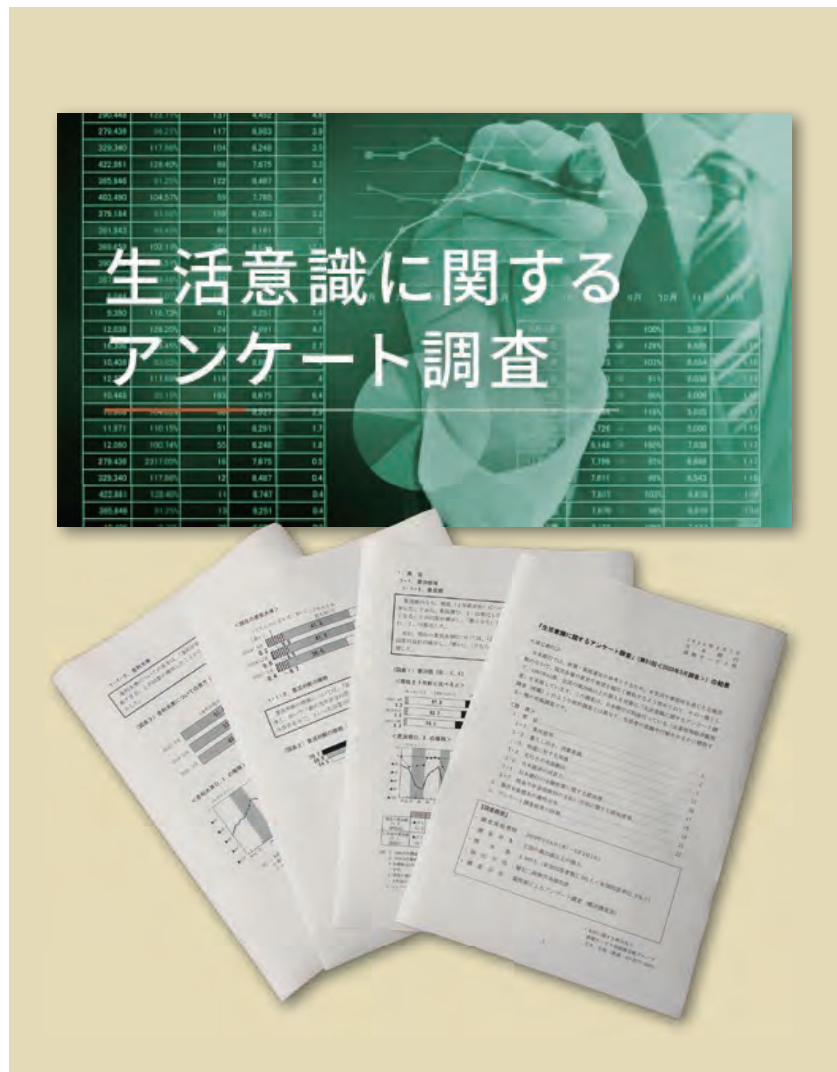
**新型コロナウイルス感染症
に関連した日本銀行の取
組みについて**

▼日本銀行では、三月十四日（土）に、総裁を本部長とする新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、政府、地方公共団体、金融機関等との連携のもと、中央銀行として必要な業務を継続して行うため、所要の対応を進めています。新型コロナウイルス感染症に関連した日本銀行の取り組みについては、日本銀行ホームページをご覧ください。



**第八二回生活意識に関する
アンケート調査の結果を公
表します**

▼日本銀行では、政策・業務運営の参考とするため、本支店や



事務所を通じた広報活動のなかで、国民各層の意見や要望を幅広く聴取するよう努めており、その一環として、一九九三年以降、全国の満二〇歳以上の個人四千人を対象に「生活意識に関

するアンケート調査」を実施しています。

▼この調査は、日本銀行が別途行っている「全国企業短期経済観測調査（短観）」のような統計調査とは異なり、生活者の意

識や行動を大まかに聴取する一種の世論調査です。

▼アンケートのタイトルに「生活意識」とあるように、回答者の生活に対する実感を尋ねる質問が中心となっています。ま

編集後記

■このたび編集長に就任しました。日本銀行に入行して32年目となりますが、これまでは主に金融システム関係や業務企画関係の仕事に携わってきました。広報誌の作成という初めての仕事に期待をふくらませています。

さて、本号「インタビュー」では、オリンピック金メダリストの室伏広治氏にご登場頂き、日本人にとって体格的に不利なハンマー投げという競技において、いかに世界の壁を乗り越えてきたかをお伺いしました。一方、コロナウイルス感染症の影響により取材が難しくなり、「対談／守・破・創」や「地域の底力」を掲載することができなくなりました。楽しみにして下さっていた読者の皆さまには大変申し訳ございませんが、ご理解を頂ければ幸いです。

日本銀行への親しみをを持って頂けるよう、引き続き広報誌「にちぎん」の内容の充実につとめ、皆様にご愛読頂ける誌面を目指してまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。(林)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2020年夏号

編集・発行人 林 新一郎

発行 日本銀行情報サービス局

〒103-8660

東京都中央区日本橋本石町 2-1-1

☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所

印刷 文唱堂印刷株式会社

禁無断転載

た、日本銀行のことをどの程度知っているか、どう思っているかや、日本銀行の業務に関連するトピックスについても質問しています。

▼一度に多くの方から、生活に関する意識やご意見を伺うことができるため、日本銀行の広報および広聴活動にとっても非常に貴重な機会となっております。

▼調査は年に四回（三、六、

九、十二月）実施しており、二〇二〇年六月実施分（第八二回）の結果を七月七日（火）に公表する予定です。公表結果は日本銀行ホームページに公表しておりますのでぜひご覧ください。





政府の年金制度一本化案に抗議する公共交通機関ストライキに合わせて行われたデモ行進の様子 (2019年12月撮影)

為政者と民衆の思いが交錯するまち・パリ

パリは、ヨーロッパの政治、経済、文化の中心地であるとともに、その歴史舞台の中心地であり続けてきました。パリに住み始めてから、この街の歴史エピソードを見聞きする機会が増えたせいか、これまであまり歴史に興味のなかった私も、歴史の現場に自ら足を運ぶようになりました。

ここで興味深い歴史エピソードを一つご紹介します。私はある週末、パリ郊外にあるヴォー＝ル＝ヴィコント城を訪れました。この城を建設したのは、ブルボン王朝国王ルイ14世のもとで大蔵卿を務めていたニコラ・フーケという人物です。彼はお金の運用に長け莫大な財産を蓄えていたのでルイ14世からもともと警戒されていたのですが、それよりも、この華麗なる城を建造したためにルイ14世から大いなる嫉妬を買い、城の披露宴パーティーから19日後に、なんと、国家財産横領の罪で牢獄に入れられ、二度とこの城に戻ることはありませんでした。その後、城の美しさにほれ込んだルイ14世は、城の建築を担った建築家や

造園家、画家らに、そのままヴェルサイユ宮殿の建築に従事するよう命じました。これが、ヴォー＝ル＝ヴィコント城がヴェルサイユ宮殿のモデルと呼ばれる由縁です。まさかあのヴェルサイユ宮殿が、ルイ14世の「男の嫉妬」から生まれたとは驚きですね。そして、ヴェルサイユ宮殿の莫大な建設費用がブルボン王朝の財政難を招き、のちのフランス革命の一因となったことはよく知られたところです。

近年パリでは、ガソリン税引き上げに端を発した黄色いベスト運動や、政府の年金制度一本化案に抗議した公共交通機関ストライキの長期化など、市民が声高に政府に抗議する場面が増えています。私もその現場に何度か遭遇しましたが、そうした市民運動の光景を目の当たりにすると、パリが為政者と、その国家運営に対峙する民衆の姿を今なお映し続けているように思えます。

(経済協力開発機構、パリ)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



ヴェルサイユ宮殿のモデルとなったヴォー＝ル＝ヴィコント城 (左) と、それに倣ってルイ14世が建造したとされるヴェルサイユ宮殿 (右)



にちぎん